鹿野川ダム　写真提供：地域医療連携室　Mさん

地域連携室便り

愛媛県立中央病院
地域医療連携室
No.42（2023年11月）

直通TEL　089-987-6270（前方連携）
089-947-1165（後方連携）
FAX　089-987-6271

冷雨の候、皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、この度　地域連携室便り No.42 11月を刊行いたしました。気軽に読んでいただけるようにと考えておりますが、皆様方からのご意見をいただければ幸いです。聞きたいこと・知りたいこと等、ぜひお知らせください。この機会にぜひメール登録をよろしくお願いいたします。

今回の内容

❶ 透析室のご紹介 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 樋野洋一郎
❷ 新センター長ご挨拶 （総合診療センター長）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 中川浩志
❸ 診療科紹介～総合診療科～ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 青木一成
❹ 第131回医療連携懇話会について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 玉木みずね
❺ 医療安全コラム ・・ 森山昭子
❻ 地域医療連携室からのお知らせ～登録お申し込み方法について

透析室のご紹介

透析室　看護長　樋野 洋一郎

透析室は透析ベッド45台を有し、医師・看護師・臨床工学技士が協働し運営しています。中予地区の基幹病院であるため、新規導入患者が多いことに加え、近隣の病院で合併症(余病)を併発した患者の受け入れやシャントトラブルの紹介も多く、重篤な患者を抱える病院となっています。血液浄化法は血液透析のみでなく、血漿交換、免疫吸着、末梢血幹細胞採取など、各種血液浄化法に対応しています。2013年11月からはon-line HDFを導入し、安定した維持透析を行っています。また、腹膜透析外来も担当しています。

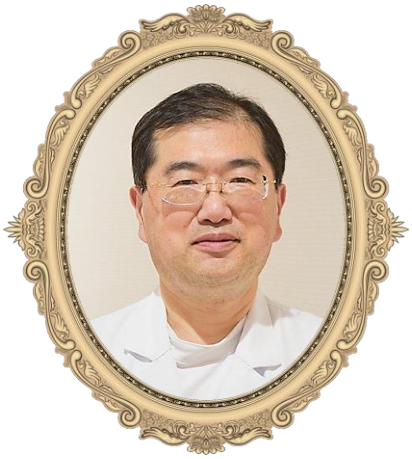
慢性腎不全患者の保存期管理においては、腎臓病教室の開催や患者教育・指導に力を入れ、腎代替療法のオプション提示や自己管理の強化につなげています。また、看護師・医師が協働し、SDM(Shared Decision Making)の考えに基づき、腎代替療法選択における意思決定支援を行っています。

このように、当院は愛媛県下で唯一、血液透析、腹膜透析、腎移植の腎代替療法を実施しており、導入期加算3算定施設としての役割を担っています。

最後に、令和6年4月以降の夜間透析廃止が決定したため、現在、近隣の病院にご協力をいただいているところです。今後ともよろしくお願いいたします。

❷新センター長ご挨拶

総合診療センター長／形成外科・顎顔面外科　中川 浩志



この度、総合診療センター長を拝命しました中川浩志（なかがわひろし）と申します。総合診療センターは総合診療科、整形外科、形成外科、耳鼻咽喉科、皮膚科、眼科、精神科、リハビリテーション科そして歯科の各診療科が属しております。多くの専門科が属しておりともすれば一体感がないようにも見受けられますが、各々の専門領域の診療を行うとともに、総合診療センターとして患者さんの生活の質、健康の質を高める医療を提供するために各センター、各診療科、各部門と連携をとって活動しております。よろしくお願いいたします。

私は大阪市生まれで大阪府立天王寺高等学校を卒業後長崎大学医学部に進学、平成3年に卒業いたしました。現在の研修医制度とは異なり、当時は卒業後すぐに各医局に入局する制度でしたが、明確なビジョンのないまま学生時代を過ごしたこともあり、地元（大阪）に戻ろうか、長崎に残ろうか、就職先は何科にしようか、卒業間際までなかなか決められなかったことが思い出されます。そのため、大阪大学の医局説明会に参加したり長崎大学では各内科、外科の医局説明会に参加したりしましたが、何かしっくりせず時間だけが過ぎていきました。ある時、形成外科の医局説明会のポスターが目に入り何となく参加してみようかと思いました。結果的に長崎大学形成外科に入局することになったのですが、このポスターに気づかなければ他の科に入局していた可能性が高いと思われます。何が人生を左右するかわかりません。

長崎大学形成外科に入局後は長崎大学病院、山口県立中央病院（現、山口県立総合医療センター）、鳥取県立中央病院、長崎大学病院、中部徳洲会病院（沖縄市）、大分中村病院、貞松病院（長崎県大村市）、長崎大学病院、北九州総合病院、松江赤十字病院（島根県松江市）と2～3年ごとに九州、中国地方の病院を転々とし、平成20年より当院で勤務しております。平成27年に形成外科主任部長になり、この度総合診療センター長に任命されました。形成外科は先天疾患等予定手術の患者さんを主として診る病院、外傷等救急の患者さんが多い病院等、病院によって特色があります。私は幸いバランスよく各々の病院に勤務させていただきました。医局人事で動いているため、当院での勤務も2～3年であろうと高を括っていたのですが、15年以上も勤務しているとは驚きです。医師としてのキャリアの約半分が当院での勤務となってしまいました。もともと、愛媛県には縁もゆかりもありませんでしたが気候、食事も私に合い快適に過ごさせていただいております。長期間在籍させていただいていることもあり、完全に愛媛県人になりきっています。夏の高校野球では純粋に愛媛県代表を応援している自分がいます。

さて、私の趣味の一つとして旅行があります。学生の時は金がなく、働き始めてからは暇がなく、外国旅行は1度きりしかありませんが、国内旅行は長期の休みがあるたびにあちこち出かけています。今は、訪れたことのない日本の最西端の与那国島や、学生の時に訪れてから行っていない富山、長野の立山・黒部ダム、上高地に行ってみようと思っています。勤務先が転々と変わったことも私にとっては苦になるどころか、むしろ嬉しいことで、次の勤務地はどんなところなのだろうかとワクワクしていたことを覚えていますし、勤務をしてからも、旅行では訪れる方が少ない穴場のスポットや飲食店に行くことが楽しみでした。松山での勤務も長期間になりましたが、それでも松山も愛媛県も訪れていない場所はたくさんあると感じております。隠れたスポットがございましたら教えていただければ幸いです。

最後に総合診療センターは各科の専門性を大切にしつつ、そのうえで患者さんのQOLの向上を図っていきたいと考えております。当院の各センター、各診療科そして近隣各医と連携をしっかりとり、発展の一助となりたいと考えております。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

形成外科・顎顔面外科はコチラから Click!
<リンク先> 愛媛県立中央病院ホームページ

❸診療科紹介 ～総合診療科～

総合診療科　医長　青木 一成

こんにちは。「愛媛県立中央病院　総合診療科」です。

地域の医療関係の皆様の中には（もしかしたら当院スタッフの中にも）「総合診療科」についてなんとなーくしかご存じない方もいらっしゃると思うので、この場を借りて改めて自己紹介させていただきます。

そもそも当院に総合診療部が設立されたのは今から24年前、1999年です。最初は救急室の片隅で風邪の診療から始まりましたが、他の臓器別診療科では対応困難なニーズ（臓器横断的な疾患や全人的アプローチが必要な病態）に応える形で徐々に成長してきました。

2018年度から新専門医制度がスタートするにあたり、19番目の基本診療領域として総合診療が加わりました。プライマリ・ケアの国民への質の保証と他の基本領域では解決困難な中長期的問題へのアプローチが期待されています。

愛媛県内にも「僻地医療」「救急医療」「終末期のケア」「多併存疾患」など数多くの問題があり、総合診療専門医の活躍が期待されます。総合診療の専門性とは、「特定臓器に着目するのではなく、地域に住むあらゆる年齢、性別の患者の健康問題に向き合って治療を行う」ことです。①患者を多角的に診る、②家族・生活背景まで診る、③地域全体を診るという視点です。それらについて1つずつ解説していきます。

①患者を多角的に診る

一人の患者さんがいくつもの健康問題や不安を抱えていることは珍しくありません。特定の臓器にとどまらず、 それぞれが影響する関係や原因を推論できる幅広い知識、高い診断力、他の診療科への連携の必要性を見極める力が求められます。

当科では、「基本的にはいかなる健康問題にも対応します！」という姿勢で日々診療に取り組んでいます。腹痛、胸痛、不明熱などの様々な症候を持ち、未診断の患者さんを診療しています。地域連携（1次・2次医療機関からの紹介患者さん）、院内紹介（当院の他の診療科からの紹介患者さん）などの入院・外来診療を行っており、診断・治療・問題解決に当たっています。しかし、地域連携の患者さんに関して臓器別疾患が強く疑われる際は直接当該診療科への紹介をご案内させていただく場合がございます。

②家族・生活背景まで診る

生活習慣・受療行動は家族内で影響を受け、子どもの将来の生活習慣に影響を与えます。家族の存在の有無は死亡率や免疫能にも影響しうることが報告されています。家族の関係性や職場の環境など、日常生活における心理的な悩みを抱える人も増えています。それらの病（やまい）の根っこにアプローチする医療が求められています。医療・福祉専門職だけでなく、学校、職場とも連携し、患者の暮らし方に合わせコーディネートします。

当科では、こころの問題を抱え、身体症状を有する患者さんの診療も行っております。その背景には、家族の影響や、思春期・青年期特有の問題も含まれていたりします。家族の関係性や職場環境等に積極的にコミットメントすることもあります。他にも予防医学的アプローチを必要とする患者さん（喫煙、アルコールによる健康問題）の診療も積極的に行っており、適宜健康に関する情報提供を行ったり、行動変容を促すようなアプローチを行ったりしています。

③地域全体を診る

疾患や病（やまい）をかかえながら生活している人が多い現在です。医療の守備範囲は、保健や介護・福祉のみならず、住民組織との協働、まち全体の行政計画への参画にも広がっています。

当院の総合診療科では、複合問題を抱えた患者さん（複数疾患、多臓器疾患、老年症候群など）の診療を行っています。それらの方がいかに地域で療養できるかを検討するための会議（退院支援カンファレンス、家族カンファレンス等）も行っています。場合によっては地域のケアマネジャー、地域包括支援センター職員などとも連携し、情報共有などを行っています。他にも、へき地医療支援（へき地診療所の代診支援）も行っています。

その他にも臨床研修病院としての教育（医学生、臨床研修医・専攻医の指導）に力を入れています。外来診療や入院診療をはじめ、病状説明や退院支援カンファレンスなどにも積極的に関わってもらい、指導を行っています。また、上記に挙げたような「総合診療」の専門領域に関するワークショップや学習会などを定期的に行っており、好評を得ています。

現在4名の常勤医師、1名の非常勤医師、研修医、看護師、医療秘書がチームになって日々和気あいあいと外来診療を行っています。

いかなる健康問題にも対応しますので、お困りの症例がありましたら是非当科にご紹介ください。

総合診療科はコチラから　Click!

<リンク先> 愛媛県立中央病院ホームページ

❹ 第131回医療連携懇話会について

副院長／総合診療科　主任部長　玉木 みずね

令和5年10月11日第131回医療連携懇話会が開催され、
「診断へのヒント―役に立つ皮膚症状の診かた―」と題して3名の演者による講演を行いました。

皮膚症状は目で見てわかるものですが、それが何を意味しているのか、という事については皮膚科以外の医師が読み解くのは簡単ではありません。

しかし皮膚症状が臨床上重要な意味を持つことはしばしばあり、非専門医が専門医にコンサルトするタイミングを理解したり、感染症と関連した皮膚症状や薬疹の基礎知識を持つことは大変有用です。

１席目は総合診療科　玉木みずねより、「総合診療科で遭遇する皮膚症状」と題してプライマリケアの現場で皮膚症状から診断につながった10症例の提示を行いました。同科で経験する皮膚症状を有する患者の疾患分類は、自己免疫疾患、感染症、悪性疾患、代謝性疾患と多岐にわたります。例えば発熱と紅斑で受診した例でも紅斑の性状によって成人スチル病、スイート病、日本紅斑熱等、治療方針が全く異なる疾患と診断され、速やかで正確な治療につなげることができました。皮膚症状を見逃さず、専門科にコンサルテーションすることで早期の診断につながる可能性が高まります。

2席目は、感染症内科　本間義人医師より「目で見る感染症」と題して感染症専門医からみた皮膚症状のレクチャーが行われました。皮疹は重症感染症の急性期に現れることがありますが、病歴の収集と併せて総合的に判断することが重要です。シックコンタクトがある場合ウイルス感染症が、性的な接触歴がある場合梅毒やHIVなどの性感染症が、動物や節足動物との接触がある場合人畜共通感染症が、弁膜症や弁置換手術の病歴がある場合、感染性心内膜炎が疑われます。皮疹の出現場所や形状は微生物の推測に役立つことがあり、診断が難しい感染症の場合重要な手がかりとなります。近年、梅毒の流行やCOVID-19の終息後麻疹などの感染症の小規模な発生が増加しており、皮疹の存在は診断上特に重要です。

3席目は、皮膚科　岩田麻里医師より「薬疹の診かた、考え方」と題して薬疹についての解説がありました。薬疹にはアレルギー性と非アレルギー性がありますが、一般的にはアレルギー性薬疹を指し、薬剤に感作されて生じます。感作には最短で4～5日の期間が必要です。そのため初回投与翌日に生じた皮疹では、その薬剤を被疑薬として考えにくいですが、過去に薬疹を生じた薬剤やその薬剤と構造的に交叉性が強い薬剤の場合では例外もあります。重症の薬疹として、スティーブンス・ジョンソン症候群、中毒性表皮壊死症、薬剤性過敏症症候群があり、早期にステロイド大量投与を行う必要があります。重症化は稀ですが、その際はすみやかな対応が必要です。

医療安全コラム

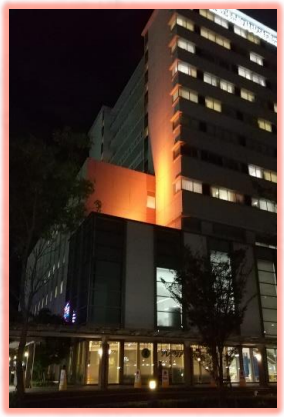
❺「リスクマネジャー」のつぶやき」

医療安全管理部 森山 昭子

世界患者安全の日や医療安全推進週間知っていますか？

皆さん、医療の安全について考える日があるって知っていますか？少しずつ広まっているとは思うのですが、まだまだ医療職の中にも知らない方が多いようなのでちょっとお知らせです。

世界患者安全の日は9月17日、シンボルカラーはオレンジ。これは世界保健機関（WHO）加盟国による世界的な連携と行動に向けた活動をすることを目的として、医療制度を利用するすべての人々のリスクを軽減するために2019年にWHO総会で制定されました。医療安全推進週間は厚生労働省の取り組みとして「患者の安全を守る」ことを中心とした総合的な医療安全対策を推進するために11月25日（いい医療に向かってGO）を含む1週間を定めたものです。



医療安全って当たり前だと思っていましたが、悲しいかな、意識しなければ担保できないことがあるんですね。人間は意図せずに錯覚や、不注意、思い込みで行動したり、タイムプレッシャーなどにより意図的に近道行動や省略行動をとったりしてしまいます。マニュアルやシステムの変更など組織として環境を整えることも大事ですが、その人間の行動に目を向けインシデントを分析する行動分析学や〇〇のCMのように行動経済学に基づいて対策を練ることも必要ですよね。人の性格や認識にだけ捉われても改善はできません。行動変容ができる関わりに注目してもいいなと思う今日この頃です。

❻地域医療連携室からのお知らせ

各種ご案内やお知らせ（医療連携懇話会案内・地域連携室便りなど）はメール配信を推奨させていただきたいと考えております。他、県立中央病院ホームページのタイムリーな更新情報も順次配信予定です。メールでの配信を希望される医療機関様につきましては、お手数ですが、下記メールアドレスへ医療機関名を記載し、送信をお願いいたします。

ご意見ご希望も

＜件名＞メール登録（医療機関名）
＜本文＞医療機関住所、電話番号

E-Mail:c-renkei@eph.pref.ehime.jp

メールのご登録で医療連携懇話会の動画配信が半年間ご覧いただけます！

動画配信3つのポイント！

① お好きな時間に
② 繰返し再生！
③ 3密回避

※ 懇話会動画視聴のみご希望の方もご登録できます。ぜひお申し込みください。

お問い合わせ
愛媛県立中央病院　地域医療連携室　＜担当＞箱岡・三好
TEL：089-947-1111(代) FAX：089-987-6271　E-mail：c-renkei@eph.pref.ehime.jp

次回の医療連携懇話会のお知らせ

第133回医療連携懇話会

ここまで進化したロボット手術！この先どうなる？

日時　令和 5年 12月13日(水) 19:00～20:10

座長　腎糖尿病センター長　山師　定

演者　『泌尿器科のロボット支援手術とこれからの展望』
泌尿器科　主任部長　二宮　郁
『子宮全摘出術のいままでとこれから～ロボット支援下手術始めました～』
産婦人科　部　長　田中 寛希
『呼吸器外科におけるロボット手術の現況』
呼吸器外科 主任部長　古川 克郎

ご紹介　地域医療連携ネットワーク 媛さくらネットについて
地域医療連携室長　二宮 朋之

＜リンク先＞愛媛県立中央病院　ホームページ　お申込・詳細はコチラから Click!

媛さくらネット

地域医療連携ネットワークサービス　媛さくらネット

閲覧無料

＜現在閲覧できる項目＞
・処方・注射・検体検査・病名・退院時サマリ NEW
・画像（放射線、エコー、生理検査）（4月1日以降の情報）
・循環器動画・放射線画像診断レポート

お申込・詳細はコチラから Click!

＜リンク先＞愛媛県立中央病院ホームページ

地域連携室便り

次回12月号(No.43)は12月中旬頃刊行の予定です。お楽しみに！

メール登録のご案内

地域医療連携室では各種ご案内やお知らせのメール配信を推奨させていただいております。

登録していただくと…

限定公開！
医療連携懇話会動画を
ご覧いただけます！

さらに

医療連携懇話会のご案内、
地域連携室便りの更新が届きます！

ホームページのタイムリーな
更新情報等もお知らせ予定です！

動画視聴のみ希望される医療機関関係者の方のご登録も受け付けております

【お申し込み方法】

①メールからのお申し込み

申し込み先メールアドレスへ、以下を記載し送信してください。

<件名>　メール登録（医療機関名）

<本文>　医療機関住所・電話番号

※動画視聴のみの希望の場合は「動画のみ」と記載をお願いします。

申し込み先メールアドレス　：　c-renkei@eph.pref.ehime.jp

②この用紙でのお申し込み

以下にご記入をお願いいたします。

<医療機関名> ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

<医療機関住所> ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

<電 話 番 号> ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

※動画視聴のみ希望の場合はチェックをお願いします。　□ 動画のみ希望

<メールアドレス>

登録するメールアドレスのご記入、またはチェックをお願いします。

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ @ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

□　今回の医療連携懇話会に申し込んだメールアドレスを登録します。